

民生福祉常任委員会記録

平成30年11月20日

【開催日】 平成30年11月20日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午前11時33分

【出席委員】

委員長	吉永美子	副委員長	山田伸幸
委員	大井淳一郎	委員	杉本保喜
委員	恒松恵子	委員	松尾数則
委員	矢田松夫		

【欠席委員】 なし

【委員外出席議員等】 なし

【執行部出席者】

市民部長	城戸信之	市民部次長兼市民生活課長	藤山雅之
市民生活課課長補佐兼消費生活センター主査	亀崎芳江	市民生活課課長補佐兼防犯交通係長	山本満康
市民生活課市民生活係長	三浦裕		

【事務局出席者】

事務局長	中村聡	議事係主任	原川寛子
------	-----	-------	------

【付議事項】

- 1 所管事務調査 市民活動について
- 2 所管事務調査 山陽小野田市空家等対策計画（案）のパブリックコメント結果について

午前10時 開会

- 1 所管事務調査 市民活動について

【議事の概要】

柳井市の市民活動センター視察を踏まえた本市の市民活動の調査

- ・平成30年4月に市民活動支援センターを市民生活課内に開設
- ・7月から市民活動団体の登録を開始し、現在19団体
- ・市民活動支援センターは「協働によるまちづくり」「協創によるまちづくり」をする上で、重要な機関

【主な質疑】

矢田松夫委員 登録団体は多いのか、少ないのか。登録数を増やすためにどうしたのか、今後どうするのか。

藤山市民部次長 登録数は少ないと認識している。登録してもらえるよう積極的に個別に呼び掛けたい。

大井淳一郎委員 どのような機会に呼び掛けるのか。登録していない他の校区のふるさとづくり協議会にも呼び掛けてはどうか。

藤山市民部次長 ふるさとづくり協議会も含め、最初は文書で依頼をしたい。

杉本保喜委員 柳井市は市民団体の意見を聞いて活動センター設立を進めたが、本市の場合はどうだったのか。

藤山市民部次長 平成20年頃にまちづくり市民会議から出された市民活動支援センターの設置を求める提言書を中心にやっていくということで、要綱に入れている。

杉本保喜委員 柳井市では団体の活動がファイルを見れば分かるようになっていた。これから先どのような形で進めていくのか。

藤山市民部次長 土日祝日の開館、専属職員がいるということで柳井市には劣っている。施設を整備しない以上、今の体制で何とかしていかなければならない。情報発信に努めていきたい。情報の共有は今検討している。

恒松恵子委員 柳井市は印刷機など備品が充実しているが、本市での備品の必要性はどう感じているか。

藤山市民部次長 市役所で印刷等の対応は難しい。公民館を利用しているのが現状である。できれば備品も用意したいが、スペースの問題もある。

大井淳一郎委員 会議室や交流スペースのある施設を拠点にするということは考えていないのか。

藤山市民部次長 作業スペースが求められているのは感じているが、本市では公民館で会議の開催や、作業をしていると聞いている。当面は今の体制で頑張っていきたい。

大井淳一郎委員 市民館など既存施設の活用の検討状況はどうか。

藤山市民部次長 既存の施設を含め庁内で議論したが、現在の体制にするという結論に至った。新たな施設を設けるという検討はしていない。

松尾数則委員 要綱にある「活力のある地域社会の実現に寄与する」ことが今の状況でできるのか。

藤山市民部次長 施設がなくても情報発信などできることはあると思う。あるものの中で精一杯頑張っていく。

松尾数則委員 ハードは無視でソフトだけというのは、よっぽどうまくいくソフトがない限り難しいと思う。なぜ大丈夫と言われるのか見えてこない。

藤山市民部次長 できたばかりで手探り状態である。作業スペースと交流スペースはあったらいいと思っている。

杉本保喜委員 市民活動の環境づくりのベースとしてセンターが必要。今のままでは尻すばみになるのではないか。どのように発展させるのか。

藤山市民部次長 市民活動団体に対する補助やスキルアップを図る研修等を検討している。市民活動を発展させるべく努力したい。

大井淳一郎委員 柳井市の印刷機はカラー印刷可能で、A2やA1のポスターも印刷できるので、公民館とは状況が違う。

藤山市民部次長 今後の参考としたい。

吉永美子委員長 本市と柳井の状況は大きく違うということを確認してほしい。

大井淳一郎委員 柳井市は市民活動に対し「支援してあげる」という意識がないため、「支援」という言葉を使っていない。本市はどう考えているか。

藤山市民部次長 市民団体が主体的に動くことが一番大事であるが、サポートすることも市民活動支援センターの役割だと思っている。

吉永美子委員長 本市は市民活動支援センターの立ち上げが早かったのではないか。登録団体の意見を聞いて進めるべきではなかったか。

藤山市民部次長 タイミング的には間違いではないが、その前に議論すべきだったと個人的に思っている。

吉永美子委員長 登録団体が19団体しかないので、増やすために登録のメリットをアピールすることが必要ではないか。

藤山市民部次長 現在の登録数は多くの市民活動団体に依頼した結果である。登録して良かったと思ってもらえるように、究極の目標として行政だけでは解決できない課題を市民と一緒に解決できるよう努力していきたい。

吉永美子委員長 登録団体をホームページや広報で出したことはあるか。

三浦市民生活課市民生活係長 登録団体の内容をホームページに掲載している。登録団体からイベントの掲載依頼があれば随時掲載している。広報に登録団体の情報は掲載していない。

吉永美子委員長 市民団体が喜ぶようにするのは大事である。

藤山市民部次長 活動の実績を積極的に発信したい。

大井淳一郎委員 柳井市では各団体の活動がセンターに行けば分かる状況である。市民生活課の中に各団体のデータベースがあるのか。

藤山市民部次長 現在はない。各団体のファイルなどを置くことができる備品を予算要求し、少しでも情報発信できるようにしたい。

山田伸幸副委員長 市民活動支援センターに市職員が張り付いたら、柔軟な発想にならない。市民団体が気軽に寄れるよう再構築すべきではないか。

藤山市民部次長 人員体制も含め、将来的な検討課題である。

杉本保喜委員 市民団体の意見を吸い上げるシステムをしっかりと作ってもらい

たいがどうか。

藤山市民部次長 市民活動支援センターの建物を造るのであれば、市民や団体の意見を聞いて運営しなければならないと思う。市民活動団体が主体的に動くことが大事であると思う。

吉永美子委員長 市民活動ガイドブックには60を超える市民活動団体があったが、現在、登録団体が19しかない。60を超えることを目標として予算要求し、補助が出るようにしてもらいたい。

城戸市民部長 登録団体を増やすことや予算の確保は当然進めなければならないと考えている。拠点機能や資機材の充実は将来的な課題で、できることからやっていきたい。相談や団体間の交流、人材育成の取組も進めていきたい。

矢田松夫委員 登録数をどう増やすのか。新年度予算に反映するのであれば、いつまでにどのようにするのか。

藤山市民部次長 登録については、今から努力したい。

午前11時5分 休憩

午前11時15分 再開

2 所管事務調査 山陽小野田市空家等対策計画（案）のパブリックコメント結果について

【議事の概要】

- ・パブリックコメントは3名から37件の意見
計画の修正は行わず、原案どおり 17件
計画の修正を行うもの 20件
- ・提出された意見、市の考え方又は対応の説明（別添資料のとおり）

【主な質疑】

大井淳一郎委員 修正について、空家等対策協議会の了解は得ているのか。

藤山市民部次長 根本的な変更は協議会で審議すべきものだが、軽微なものについては委員の了解を得ている。

大井淳一郎委員 今回の修正は、全て軽微なものか。

藤山市民部次長 軽微なものとして認識している。

山田伸幸副委員長 5ページ「対応方針について」の回答で「本市では空き家バンクを構築していません。空き家バンクの構築を目指します」とあるが、これは計画に記載するのか。

藤山市民部次長 これは質問に対する回答である。

大井淳一郎委員 利活用可能なのはAランクのみか、A、Bランクなのか。

藤山市民部次長 計画ではAランクが利活用可能としている。

大井淳一郎委員 8ページの回答では「A、Bランクの活用容易空家率」を30.6%としているが、この数字が変わるのではないか。

亀崎市民生活課課長補佐 8ページはAランクの説明で、Bランクには触れていない。Bランクもすぐには利活用できないかもしれないが、利活用可能としている。

吉永美子委員長 パブコメの結果はどこに出しているか。

亀崎市民生活課課長補佐 パブコメの閲覧場所に結果も置いている。ホームページにも掲載している。

午前11時33分 散会

平成30年11月20日

民生福祉常任委員長 吉永美子